



TREASURY
THE WORLD BANK

NEWS

投資家の皆様へお知らせ

2011年7月発行



Q&A

世界銀行の格付は？

世界銀行は Moody'sやS&Pなどの主要格付機関から、最高の格付けであるAAA格が付与されています。

世界銀行の年間資金調達額の規模は？

世界銀行（正式名称：国際復興開発銀行 通称：IBRD）は、世界で最大の債券発行体の一つです。また、最も頻りに債券発行を行っている機関の一つでもあり、一年に数百銘柄の世銀債を発行しています。2010年度（2010年6月期）には、世界銀行は全世界で総額340億米ドル相当（約3兆円）の世銀債を発行しました。

日本での資金調達はどのくらいの規模ですか？

平均で年間70億米ドル相当額（約6,000億円）の世銀債を日本の個人投資家や機関投資家に、ご購入頂いています。ご購入頂いた資金は発展途上国への資金貸出のために使われます。

世界銀行は資本市場から借入れた資金を何に使うのですか？

途上国や新興国の貧困削減と人々の自立を実現するための各種プロジェクトへの貸出に使われます。世界銀行は、人材開発、社会開発やジェンダー問題などの分野における世界最大規模の国際開発金融機関であり、さらに環境保全のための事業に対する最大の資金供給機関でもあります。



世界銀行の取り組み

世界銀行と日本：川崎製鉄プロジェクト

・ 半世紀前に千葉県の発展を支えた世界銀行(2ページ)

現在のプロジェクト事例：インド企業向け支援

・ 中小企業を対象とした貸出ならびに開発プロジェクト(3ページ)

世界銀行債券ファンド(愛称：ワールドサポーター)

・ ワールドサポーターについて(4ページ)

インタビュー

・ アンドレア・ドール 世界銀行財務局(4ページ)

写真(上から順に)： © カートカード/世界銀行、世界銀行、カートカード/世界銀行、世界銀行

川崎製鉄と世界銀行

1878年4月、川崎重工（現在のJFEスチール株式会社）の前身である川崎造船所が創業され、同社は様々な重工業分野に進出していきました。1920年代には鋼材の生産も開始し、同社は第二次大戦終了まで日本の鉄鋼産業の中心的存在でした。

第二次大戦終了後、戦後の企業再生の一環から同社は川崎重工の鉄鋼部門から独立し、初めて単独の製鉄会社として再出発することとなりました。しかしながら、生産設備の多くが被害を受けたり、老朽化してしまったことから、その生産能力は大きく落ち込み、国内市場シェアは戦前の50%から10%にまで落ち込んでしまいました。こうした状況から脱するべく、1951年に同社初の銑鋼一貫製鉄所となる千葉製鉄所が設立されました。高炉を所有することで、鉄鉱石を原料に最終製品の鋼材の生産までを一貫して行う、高炉メーカーと呼ばれる大規模鉄鋼メーカーへと転換を実現したのです。この過程で、同社の生産設備の刷新も進みましたが、かつての市場シェアを取り戻すためには更なる設備投資が必要となりました。日本国政府にとっても、日本全体の製鉄能力を高めることが急務でした。

こうした情勢下、世界銀行は日本開発銀行を經由して1956年から1960年にかけて、3回に渡る総額3400万ドル規模の貸出を川崎製鉄に対して実行しました。これは千葉製鉄所に最新の生産設備を導入し、生産能力を増強するためのものでした。同社の資本対比で巨額な借入であったことや、生産能力の大幅な向上が、借入金を滞り無く返済するために不可欠だったことから、日本開発銀行も少なからず懸念を表明していましたが、この3回の貸出によって、最新の生産設備が次々に稼働し、千葉製鉄所の粗鋼の生産能力は1956年当時の43万トン規模から1960年には158万トン規模まで大幅に拡大したのです。この結果同社は、世界銀行への借入金返済はもちろんのこと、自力で更なる設備増強も行い、国内での市場シェアの拡大と海外への製品輸出も開始することができました。

三回にも及んだ同社への世界銀行の貸出は、同社の発展だけでなく、奇跡的な経済復興を成し遂げた、日本の経済発展の原動力となったのです。



川崎製鉄のプロジェクト概要

川崎製鉄ストリップミルプロジェクト（鉄鋼などを帯状に作る連続式圧延機）

- ・ 期間：1956年 - 1959年
- ・ 貸出総額：2000万米ドル
- ・ 資金使途：新型連続式鋼帯圧延機の導入により、1961までに薄型鋼板製品の年間生産量を21万5000トンから31万5000トンに増産すること。

第二次川崎製鉄高炉プロジェクト

- ・ 期間：1958年 - 1959年
- ・ 貸出総額：800万米ドル
- ・ 資金使途：第2高炉の建設、銑鉄の年間生産量を32万4000トンから68万4000トンに倍増させると同時に、コストの削減も実現すること。

第三次川崎製鉄プロジェクト

- ・ 期間：1960年 - 1962年
- ・ 貸出総額：600万米ドル
- ・ 資金使途：銑鉄と鋼塊の生産拡大、製品の品質向上、ならびに製品種類の多様化により、同社初の米国市場への参入を実現すること。

川崎製鉄と共に発展した千葉県経済

川崎製鉄が東京湾沿岸に千葉製鉄所を建設し、世界銀行が設備投資の支援を行ったことで、千葉県は大きく発展を遂げました。1940年代には千葉県の主要産業は第一次産業に集中しており、その生産規模の拡大には限界がありましたが、本プロジェクトにより、1960年代には日本でも有数の産業地域に発展したのです。日本では現在、高齢化が問題となりつつありますが、千葉県民の平均年齢は42.4歳と日本でも最も若く、一人当たりの平均収入も310万円と、国内最高水準にあります。人口の70%はサービス産業に従事し、25%が第二次産業、5%が第一産業、という構成になっています。

川崎製鉄が千葉製鉄所を設立する前は、千葉県は醤油や日本酒の製造が産業の大きなシェアを占めていました。同製鉄所稼働後は、その他の製造業も千葉県に生産拠点を拡大し、さらに沿岸沿いには倉庫や船舶用ドックといった部門や、商業サービス部門も拡大していきました。当時の世界銀行の支援が、今日、巨大な経済圏を有する千葉県の発展に寄与し、成功を修めたことは、現在でも発展途上国の支援を行っている国際機関として大変意義深いことなのです。



インド企業向けの支援：中小企業を対象とした貸出並びに開発プロジェクト

かつて世界銀行が、第二次世界戦後の日本の復興や経済発展を支援したように、現在も世界銀行は加盟国の経済発展を目的とした支援を行っています。インドでは、中小企業セクターが拡大することによって、現在の第一次産業の労働者の70%に相当する新たな雇用を創出できると見られ、この部門の拡大が貧困削減や経済成長に極めて有効と考えられています。しかしながら、インドの銀行における中小企業向け貸出業務はまだ初期段階であり、その貸出金利は非常に割高なものとなっています。その結果、中小企業セクターでの新規雇用者数も頭打ちになっているのです。この状況を改善するためには、正しい金融政策の策定、信用評価方法の確立、企業の倒産処理方法の整備等が必要となります。

2005年、世界銀行はこうした問題に対処するために、新たに1億2,000万米ドルの予算を承認しました。これはインドの10州に所在する900もの中小企業へ長期資金の貸出を可能にした世界銀行最初の中小企業金融・開発プロジェクトでした。このプロジェクトにより、インドの金融セクターにおいて、中小企業向け信用リスクの分散が可能となり、同セクター全体の与信供給能力を向上させました。その結果、中小企業全体の年間平均売上高は19%の増加となり、15%の増収を実現しました。2009年には、さらに4億米ドルの追加予算が承認され、プロジェクトはより所得の低い州にも拡大されました。追加予算により、少なくとも1800もの事業が新たに支援を受けることができたのです。



インドの中小企業を対象とした2つの貸出プロジェクト概要

中小企業金融・開発プロジェクト

- ・ 承認日：2005年
- ・ 貸出総額：1億2000万米ドル
- ・ 目的：中小企業の成長を促すべく、その資金調達環境とビジネス支援の環境を整え、新規企業の積極的参入と新規雇用の創出を実現すること。
- ・ 承認日：2009年
- ・ 貸出総額：4億米ドル
- ・ 目的：中小企業全体の生産力向上を実現すべく、より多くの中小企業が長期資金の借入とビジネスサポートを受けられる環境を整えること。

「当社の売上げは、2005年は1億7000万ルピーでしたが、2007年には3億4000万ルピーに倍増しました。」 -ウメシ マハジャン, デリーの衣類輸出業者

「最初の借入の40万ルピー（約8000米ドル）により、製品の輸出業務に進出することができました。お客様は常に最新の商品を求めており、当社もそのニーズに対応すべく、遅れをとらないようにしなければなりません。」

- アイ・シー・アグラワル, 自動車部品供給会社



世界銀行債券ファンド



世界銀行債券ファンド（愛称：ワールドサポーター）は、主に新興国通貨建の世銀債にのみ投資をする投資信託です。2007年にワールドサポーターが組成されて以来、世界銀行は米ドルや19の新興国通貨を含めた20以上の通貨で世銀債を発行し、純資産は2000億円以上に達しています。現在の販売会社は54社ですが、引き続き投資家の人気は高く、販売会社は順次拡大しています。世界銀行がワールドサポーターや世銀債などを通

じて投資家の皆様からお借りした資金は、右のインドネシアのプロジェクトのように、発展途上国の貧困撲滅を目的とした様々なプロジェクトの資金として貸出されます。

貧困削減プロジェクト

インドネシア

同国の最優先事項である貧困対策で、インドネシア政府はコミュニティ主導型開発（CDD）プロジェクトを中心とした活動を行っています。この一環として、最も貧困に苦しんでいる地域の再建をインドネシア政府と世界銀行の共同プロジェクトが国家規模で実現しました。40もの最も貧しい地域毎の開発担当チームが、世界銀行からの6,900万米ドルの資金を活用し、ビジネス・保健・教育分野の拡充や紛争解決規定の設定などの目標を着々と達成しています。これまでに、アチェ、ニース、ジョグジャカルタ特別州、中部ジャワ州の3万8000世帯が再建しています。年間10億米ドル規模の資金が継続的にこのプロジェクトに投入されれば、毎年新たに7万もの村が再建されると見られています。



インタビュー アンドレア・ドール



日本市場を担当してどのくらい経ちますか？

日本市場を担当して8年になります。世界銀行財務局で、日本市場での世銀債発行全般を担当していますが、非常にやりがいのある業務です。

日本にはどのような印象をもっていますか？

出張で北は北海道、南は鹿児島まで、日本の主要都市や地方都市を訪れる機会が多くありましたが、毎回、地域独特の文化について発見があります。特に各地方で異なる日本の豊かな食文化には大変驚きました。例えば、うなぎの蒲焼でも関東風と関西風がありました。また、新幹線の極めて正確な運行スケジュールには感動しました。これまでに何度も新幹線を利用していますが、一度も遅れたことがありません。

日本の文化、そして人々が誠実で勤勉で仕事に熱心なことに非常に感動しています。また、質を重視し、細部まで注意を払う国民性が素晴らしいと思います。実際、私はいつも「日本製」の製品を探しています。なんとと言っても質が良く、そしてこれまで見たこともなかったような美しい包装をしてくれるからです。ちなみに私の出身国のセントルシアはカリブ海の小さな島なのですが、東京の喧騒と人の多さにはいつも驚きます。

なぜ日本市場は、世界銀行にとって特別な存在なのでしょう？

その理由はいくつかあります。まず最初に、日本は個人投資家の市場が大きく、家計が巨額の金融資産を有していることです。日本の個人向け債券市場は世界的に見ても最大規模と考えられます。そして、世界銀行は日本の個人投資家の間で知名度が高く、過去数十年に渡り継続的かつ安定的に世銀債に投資をして頂けるからです。世界銀行が日本で初めて資金調達を行ってから今年で40周年となります。日本の投資家の皆様が、世銀債を通じて途上国支援にご協力いただけることは、世界銀行にとって大変素晴らしいことです。世界銀行はかつて、日本の第二次世界大戦後の復興のために、日本の多くのプロジェクトに資金を貸出しました。今日では、逆に日本の投資家が世界銀行を支援し、途上国支援に重要な役割を果たしているのです。

アンドレア・ドール
世界銀行 財務局
リードファイナンシャルオフィサー

お問い合わせメールアドレス: seginsai@worldbank.org
FAX: 03-3597-6695
住所: 〒100-0011, 東京都千代田区内幸町2-2-2, 富国生命ビル10階, 世界銀行東京事務所
世界銀行 財務局 日本語ホームページ: <http://www.seginsai.org>
世界銀行 財務局 英語ホームページ: <http://treasury.worldbank.org/capitalmarkets>